

第14回

公園の写真展

2021年1月23日(土) ~ 2月14日(日)

けいはんな記念公園
KEIHANNA MEMORIAL PARK

審査講評会：1月31日(日) 実施

審査員：

仲 隆裕 (京都芸術大学 / 芸術学部教授)

林 直 (写真家、大阪芸術大学・同志社女子大学・ニコンカレッジ / 講師)

【審査員講評】

審査員
最優秀賞

「魚の眼が見た
公園の四季」
杉岡 克典

現在けいはんな記念公園のある場所には、かつてはため池や棚田が広がっていました。公園づくりにあたってはこうした農業景観を残しつつ、新たな魅力が加えられているのです。

鳥や魚は、いわば公園の先住民です。私たちが公園の風景を楽しむことと同様、彼らも人間風景を楽しんでいるのかもしれません。水中から見た公園の四季の魅力が、楽しく描写されています。

仲 隆裕

一瞬「？」と思わせる逆さまの風景ですが、タイトルを見てニヤッとさせられますね。

実際に魚はこんなふうに見えてないだろうと揚げ足を取りたくなる方もおられるかもしれませんが、アイデアのユニークさだけでなく、足繁く四季を通して撮られた写真は美しく、楽しい公園の魅力を伝える作品となっています。

林 直



審査員
優秀賞

「幽玄の世界」

正木 良忠



【審査員講評】

けいはんな記念公園が作られる以前から、朝霧はこの場所の特徴的な現象でした。いまなお、霧がたつ朝は普段とは違う風景を見ることができます。ちょっといかめしい観月橋がやわらかな水粒の衣装をまとって、おぼろげにたたずんでいます。何か古い記憶の底がくすぐられるようで、心が異世界に飛んでいきそうです。

仲 隆裕

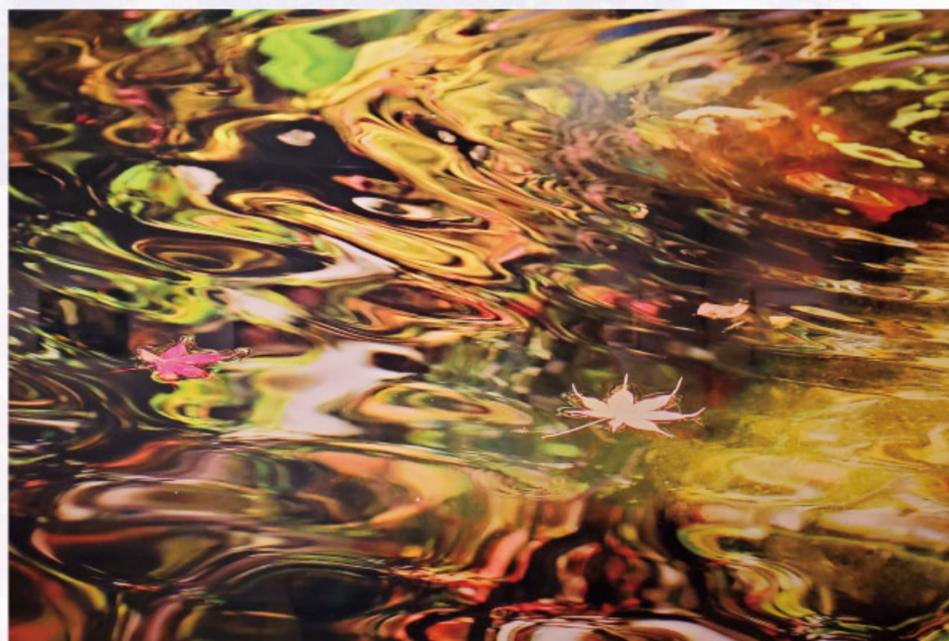
水景園の池から立ち登る霧は、ときに人工的な観月橋の直線を幻想的な造形として浮かび上がらせ、水鏡がそれをさらに強調します。その魅力を画面いっぱいに捉えられたことにより、正しく幽玄の世界へと私たちを誘ってくれるようです。

林 直

審査員
優秀賞

「墨流し染」

乾井 義實



【審査員講評】

「墨流し」とは、水面に墨や絵の具をたらし、ここに紙を当てて模様を染め付ける技法をいいます。この写真は、コンピュータ・グラフィックスかと勘違いしそうな色や模様ですが、これは確かに公園の風景で、池の水面に公園の木々の緑や紅葉が映り込み、滑らかな波によって複雑な色模様があらわれているのです。紙ではなくカメラでうつしとられた墨流し。やさしい光が魅力的です。

仲 隆裕

幾層もの段差や鯉の動きによって、様々な表情を見せる水景園の水面はいつまでも眺めているのが楽しく、カメラを向けるとつい際限なく撮ってしまいますね。落ち葉の存在が季節感を感じさせ、色鮮やかな水面の正体が周囲の紅葉によるものであることを感じさせ、見る人の想像力を掻き立てる働きをしていますね。

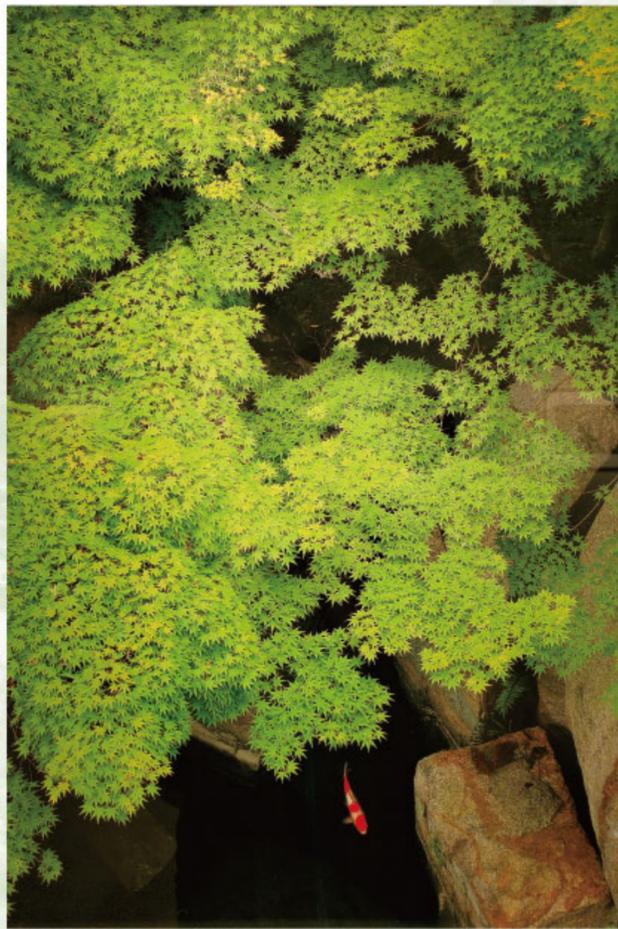
林 直



所長賞

「青の庭—時が佇む—」

藤澤 祐子



【選出者講評】

見慣れた景色もふとした瞬間に、その景色の美しさに気づかされる時があります。そういう瞬間を思い起こさせる一枚であり、かつ水景園が見せる一瞬の表情を切り取った一枚として感動を覚えました。

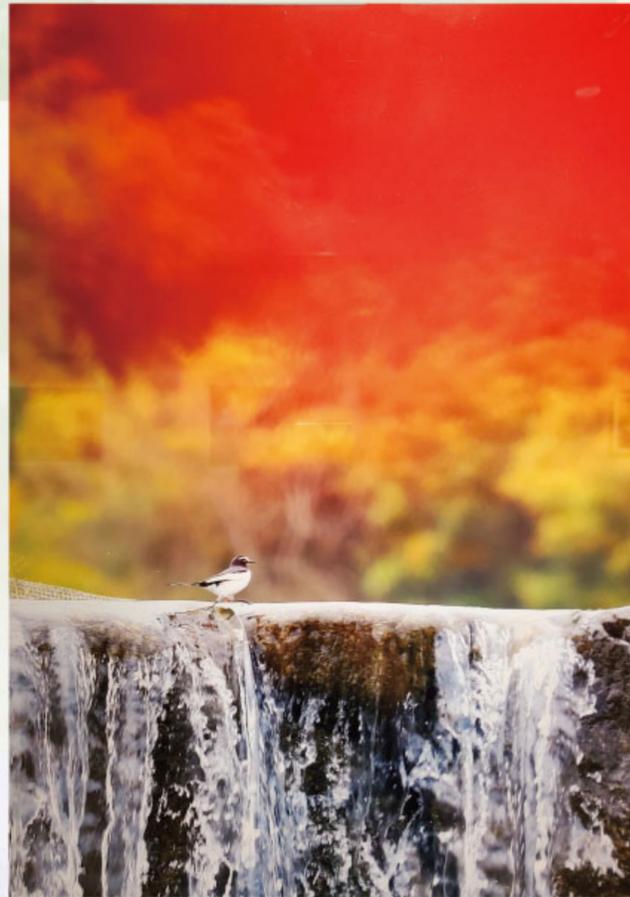
けいはんな記念公園
所長 舟尾俊範



自然賞

「お・さ・ん・ぽ」

上川 清朗



【審査員講評】

水景棚は、ため池であった長谷池の水が階段状に落ちる滝です。沢飛び石を伝って、人間も散歩して水景を楽しみますが、セグロセキレイでしょうか、小鳥ものんびりと散歩を楽しんでいる姿をユーモラスにとらえています。

仲 隆裕

画面を大きく三層に色分けしている構成が印象的です。セキレイと滝を中心に、前ボケの赤、奥の黄色と、うまく使い分けられました。動く相手にとっさの反応は難しいと思いますが、セキレイの片足が上がっていることがもうちょっと見えたらな〜っという気持ちにさせられます。

林 直



文化賞

「オ～イいっしょに
頑張ろうな～！」

裏野 三雄



【審査員講評】

水景園には棚田があり、稲が栽培されています。稲穂が実りお米になりかけると、スズメやカラスが食べにやってきます。これらを追い払うのが案山子（かかし）や鳴子（からからと音をたてる）の役割。命を奪わず共存しようとする文化の風景が、今年は特に身に沁みます。

仲 隆裕

まるで案山子と鳴子が会話しているように見えたのでしょうか。日がな一日、田んぼの見張りをしている二人が、上と下で互いに声を掛け合っているみたいでのんびりした時間の流れが感じられます。また今のご時世、タイトルには私たちへのメッセージも込められているのかもしれない。

林 直

春賞

「陽春日」 住岡 新一郎



【審査員講評】

暖かな春の一日。この写真は2年前に撮影されました。あたりまえだったこの幸せの風景が早く戻ってきてほしいものです。

仲 隆裕

公園の何気ない春の一コマですが、反逆光の日差しに照らされて、立体感のある表現になっています。もうワンテンポ待てば、後ろの子供さんも良い位置に収まったでしょうね。

林 直

夏賞

「子守れ日」 前田 恵美



【審査員講評】

けいはんな記念公園の広場は、いつも子どもたちでにぎわっています。危ない遊びを平気でする活発な子どもに親はハラハラ。強い夏の日差しから守ってくれる樹木に、子を思う親の気持ちが託されています。

仲 隆裕

炎天下から子供たちを守ってくれる木漏れ日の清々しさが伝わってくる作品ですね。画面上部の樹木の枝振りを半分くらいでカットすると、さらに印象が強い写真になりそうです。

林 直

秋賞

「晩秋の水景園」
岸本 勉



【審査員講評】

秋の長谷池は秋になると色とりどりの華やかさ。蔓を切り、枯れ木を伐採するなど、山の木々の手入れによって紅葉の錦は年々、豊かになってきました。去年の美しい風景がみごとに描写されています。

仲 隆裕

見事に紅葉した木々と池の映り込みがとても美しいですね。これだけ紅葉で埋め尽くす風景を身近に感じられるこの公園はやはり素晴らしいかと再認識させられます。

林 直

「深淵に光差す」
中村 敏明



【審査員講評】

堂々と枝を広げるモミジ。山中で他の樹木に挟まれているモミジ。いろいろな場所でいろいろな樹形のモミジが水景園には息づいています。池に目を落とすとおや、こんなところにも、という発見の楽しみを伝えてくれる作品です。

仲 隆裕

深く濃い背景に浮かび上がる鮮やかな紅葉の作品は、光線状況をうまく捉えた作者のお手柄と言えるでしょう。見る人の視線を釘付けにする一枚です。

林 直

冬賞

あわゆきこゆき
「淡雪小雪」
武内 正夫



【審査員講評】

このところ大雪が少ない京都府南部ですが、時折、一面の雪が視界を覆うことがあります。その数少ない機会をみごとにとらえた作品です。

仲 隆裕

降り注ぐ雪がこれだけ写真に写り込むとしたら、相当強く降ったタイミングだったことでしょう。望遠レンズの圧縮効果も雪の存在感を増す働きをしています。

林 直